

事業名

東京 2020 大会カヌースラロームのキャンプ誘致から考える、
カヌー競技の魅力と奥深さ

～多摩川周辺環境で行う「カヌー」を中心に持続可能なアクティビティスポーツを目的とした理解促進と派生展開～



1 実施団体

social unit UDON

2 担当課

企画政策課・スポーツ推進課

3 実施時期

2017年5月29日～2018年3月28日

4 参加者

合計：24名

5 実施場所

青梅市役所 2F 喫茶スペース / 釜の淵市民会館

6 事業の目的

有限な多摩川の自然環境下で行う「カヌー」や「アクティビティスポーツ」、そしてそれらを行う為の「周辺環境」を今後も持続的に利用・活用できるように一人一人がそれらの背景や特徴を理解する。

7 役割分担

- ・団体の役割

- 企画・司会進行・渉外(講師依頼)・会場準備・チラシ作成・受付
- ・担当課の役割
- 活動場所の提供広報活動のサポート

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

青梅市といえば「カヌーの聖地」と以前から呼ばれるが、市民の中でもそのような意識や考えがあまり浸透していなかったことが現状の課題としてあり、そして有限な多摩川の自然環境を市民一人一人が意識する事も同時に課題としてあった。

事業を通じて

①青梅市における市民一人一人へのシビックプライドを一部追求できた

上記課題から市民一人一人が住生活を送っている青梅市の有益と呼ばれる「情報」(固定概念)などが薄れていることが現状課題としてあり、「カヌー」も例外ではなく競技などに関わる方々などは日本では青梅市(御岳)がカヌーの聖地と呼ばれることが当たり前と考えているが、市民の中ではそのような意見が割れる現状があったため、競技・競技を行う環境の情報などを知る事によって、青梅市内におけるシビックプライドの一部を参加者と共に深く共有できた。

②「カヌー(競技)」や競技を行う上での「環境」を深く知る・見る・触れたことによる競技全体・普及活動への貢献

③東京 2020 大会での青梅市が取り組むカヌーキャンプ誘致の認知向上とその波及効果の拡大

9 目標達成

事業の目標：東京 2020 大会の競技である「カヌー」の種目やそれらに関わるヒト・モノ・コト・バの理解促進の向上。市内における多摩川周辺環境を利用・活用するカヌーやアクティビティスポーツ自体と無縁である在住市民などを対象とした認知、そして多摩川の環境下で行われるカヌーを中心としたアクティビティスポーツにまつわる新たな派生展開が

生まれる事を目標とする。

目標の達成具合： 事業を通じて実際にカヌー競技やそれらに関わる
ヒト(当事者 / ユーザー 周辺住民/市民 etc)・モノ(競
技で使用する備品等)・コト(当事者～市民が一本の「線」
でつながるキッカケ)・バ(コトでつながるための「場」
の形成 / 御岳溪谷を中心とするカヌーなどを行うため
の「環境の確保」)の理解促進が実際に一般市民から当事
者の方を踏まえ「対話の場」を通じて行えた。

カヌー競技だけにとどまらず、競技を行う上での「環境」
にも着目したことで今後もアクティビティスポーツ競
技等を行っていく為の持続可能な展開やアイデア展
開にまつわる議論やワークショップが行われ、次のステ
ップに繋がる派生展開の兆しが生まれたと考える。

10 事業の実施内容

【年間総事業】

～第一回～

07/29(土) 13:30～16:30 釜の淵市民会館

「カヌーの聖地を実感 カヌーと一緒にぷらっとカフェ」

参加者：6人 スタッフ：3人

参加費：300円

協力：青梅市カヌー協会

内容：東京2020大会開催に向け、青梅市では、「カヌーの聖地」である御岳溪谷へのカヌースラローム競技のキャンプ誘致に取り組んでいます。カヌー競技の魅力と奥深さを探る連続講座を開催するにあたり 第1回目として、カヌー競技の基礎的な部分に重点を置き、実際にカヌーに触れつつ、「カヌー競技」を身近に感じる事を目的としながら「対話の場」を形成。

当日は青梅市カヌー協会会長である藤野強氏にご登壇いただき、カヌ

ーの基礎となる説明から青梅市でのカヌー競技の取り組みや現状等、競技を行う上での「カヌー」本体の説明など普段の生活で中々得られることができない地上での体験企画を行った。

対話の場を形成するにあたって、参加者はカヌーについて知っていることを挙げてもらい、東京 2020 大会に向けてのカヌーキャンプ誘致に向けて企画政策課の方からお話をしていただき、その中でカヌーの聖地である青梅市でカヌー競技等を東京 2020 大会に向けてより知ってもらう具体的なアイデア展開を行い一回目の事業を終えた。

～第一回～ 当日写真

07/29(土) 13:30～16:30 釜の淵市民会館

「カヌーの聖地を実感 カヌーと一緒にぷらっとカフェ」



～第二回～

10/14(土)13:00～17:00 青梅市役所 2F 喫茶スペース

『映画 僕らのカヌーができるまで を観て考える、青梅の「自然×アクティビティスポーツ」の共存』

参加者：15人 スタッフ：3人

参加費：500円

協力：青梅市カヌー協会

ゲスト：デザインコンサルタント 益田文和

青梅市カヌー協会会長 藤野強

森の演出家 土屋一昭

カヌー競技の魅力と奥深さを探る連続講座として、第2回目の今回は、競技という枠組を超えたカヌーの「歴史」や、アクティビティスポーツを行う為の「自然」にスポットをあて、「カヌー」を中心とした多摩川周辺の環境を活用するアクティビティスポーツの理解促進を目的として映画上映と対話の場を形成した。

多摩川の自然環境を再確認し、その維持可能な利用・活用が出来るように、参加者がカヌーの歴史を含めて理解促進を図るため第一部_映画上映、第二部_参加型ワークショップ(対話の場)を行った。

第一部の映画上映後、第二部のワークショップではゲスト3人による事例紹介や活動の取り組みを紹介していただきながら、ゲスト自身が考える青梅市のカヌー競技や自然環境などにまつわる様々な参加型のトークセッションを行った。

参加者にはオリンピック以降も多摩川を中心とした周辺の自然環境がどんな活用展開、そして多摩川を中心とした周辺の自然環境の活用をしていくために今現在、課題になっていることを挙げてもらい、参加者全員で今後の課題意識や新たなアイデア展開に繋がる共有を行い第二回目の事業を終えた。

～第二回～ 当日写真

10/14(土)13:00～17:00 青梅市役所 2F 喫茶スペース

『映画 僕らのカヌーができるまで を観て考える、青梅の「自然×アクティビティスポーツ」の共存』



～第三回～

03/28(水) 18:30～20:30 青梅市役所 2F 喫茶スペース

「多摩川周辺のスポーツについて考えてみよう」

参加者：3人 スタッフ：3人

参加費：無料

カヌー競技の魅力と奥深さを探る連続講座として、第三回目となる今回は、カヌー競技という枠組を超えたスポーツ / アクティビティスポーツを行う為の青梅市が誇る「自然」や「多摩川」にスポットをあてながら、多摩川周辺環境のスポーツを盛り上げる方法と新たな可能性を探りました。そして、東京 2020 大会を数年後に控える中で、青梅市ならではの地形や環境を活かした「スポーツ / アクティビティスポーツ」の新たな物事 / ア

アイデアやその展開を考えてゆく「対話の場」を形成。

また年間事業の最終まとめと報告会を行った。

アイデアを展開する上で青梅市が誇る自然環境のつながりをうまく活用し、2020 東京大会以降に実際に主要競技として行えるベースでアイデアを展開。

カヌー競技以外にも青梅市の多摩川周辺環境で様々なアクティビティスポーツが盛んに行われていることを確認しながら、今後の青梅市の象徴ともなり得る可能性があるアイデアを参加者と共に共有しながら年間事業の最終まとめと報告会を行い第三回目となる事業を終えた。

年間参加者合計

参加者：24人 / スタッフ：9人

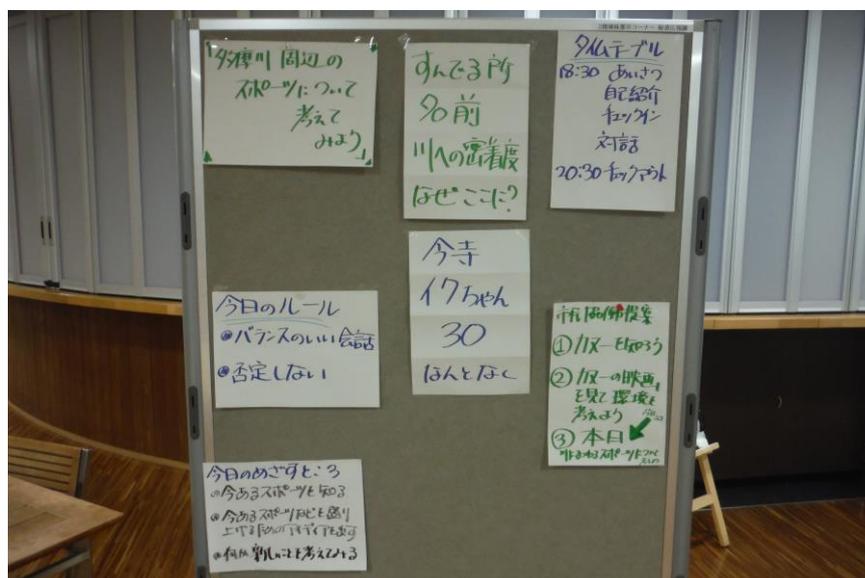
*当初の計画では年間四回を行う予定であったが、第二回事業が終了後担当課や協力先と相談した上で事業計画上の第三回目を延期とし、当初の予定でもあった第四回を第三回目と一つの回として年間事業の最終まとめと報告会を行った。

*各事業結果の開催写真は別紙参照

～第三回～ 当日写真

03/28(水) 18:30～20:30 青梅市役所 2F 喫茶スペース

「多摩川周辺のスポーツについて考えてみよう」



11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	3	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

弊団体(social unit UDON)の強みは数字では評価できない定性的な部分を様々なコミュニケーションスキルや対話の場を通じて形成していくことであり、今回の H29 青梅市市民提案協働事業では団体として全てが初の試みであったが、NPO 化を目指す一歩として今回の協働事業はとても欠かせない経験となった。

事業を通じての課題は「広報力」であり、私たちの団体を知らない方々に一瞬で伝わるような事業の組み立てや内容等をいかに発信できるかがポイントであると考えます。

そして数字では評価が難しいアイデア展開や定性的なソリューション部分をいかに参加者へ共感してもらうかというような部分が今後の団体、そして協働事業へチャレンジしていく事だと考えます。

また、自身の団体となる自己分析を徹底的に行い、協働相手となる担当課や協力先との連携を図り、更なる団体の強みを生かした事業展開とそのシ

ユミレーションを行うことが最も重要だと年間事業を通じて痛感した。

13 その他

①連携不足

今回、協働事業を行った大元のテーマである「オリンピック・パラリンピックを契機とした交流・理解促進事業」にて、当時のスポーツ推進課様との連携不足により H29 年度市民提案協働事業にてスポーツ推進課様と事業を行えなかった点は弊団体として大変申し訳なく思う。

理由としては、弊団体は事業を行っていく上でカヌーを中心とした多摩川周辺環境で行う「アクティビティスポーツ」という言葉を大きな枠の上での「スポーツ」として捉えていたが、スポーツ推進課様とのお考えや方針と異なっていた点もあり、その点でうまく連携が図れず協力の申し出があまり行えなかった。

②事業回数の短縮

「12まとめ」にて「団体の強みを生かした事業展開とそのシュミレーションを行うことが最も重要」と記載した通り、第三回目予定事業の延期として前半二回の事業後に後半事業の軌道修正が必要であった。また、第三回目予定事業はイベント型の事業であり、弊団体発足後今迄に行った事がないようなタイプの事業であった為メンバー内・担当課・イベント型事業に詳しい外部協力者などと慎重に相談した結果延期を決断。

③必要経費

当初の予定では第三回目予定事業に費用がかかると見込み前半の事業は持ち回りの備品等で対応したが、第三回目予定事業が延期となった為必要予定経費はその後使用せず年間事業終了とともに返納の手続きを行う予定。